和をもって

第12号

発行
成相山成相寺
京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
http://www.nariaiji.jp/

予測と言うこと

今年のゴールデンウィークは天気予報通りの良い天気に恵まれ多くの方が成相寺にお参り下さいました。西国巡礼の帳面や軸をお持ちの方が沢山お越しになり、皆様天空の回廊からの橋立の眺めを満喫して戴きました。天気の良い日は本当に極楽に一番近い場所かと思える位の絶景です。

今年は連休が始まる前から経済予測で国内の観光地の混雑が予想され天気予報も晴天続き。願ったりかなったりの予測でした。結果もその通りで皆様にも喜んで戴けて何よりでした。

私達の人生も予測が出来たら苦労も悲しみも少なくて済むのになあ。とつい思ってしまいます。順風満帆な人生にもどこかで予測不可能な出来事が起きて台無しになったり、何も良いことの無い人生と思っていたのに大どんでん返しが起きたりと。だからこそ人生は面白いともいえるのですが。急に何かを失う、別れる。これは辛く後で心に大きな傷として残りますね。想像もしなかった悲しいことに合うと「神も仏もないわ」とつい愚痴ってけちをつけたくなります。なかなか「これも神様仏様の思し召し」なんて殊勝なことは言ってられません。恨み辛み後悔の念から悲嘆に暮れて体を壊す人もいます。

先の出来事が判っていたらこんなに悲しまなくて済むのに、後悔しなくて済むのにと言う事が沢山ありますね。

お釈迦様の教えの中には「苦」が沢山出てきます。

愛別離苦（あいべつりく）愛する者と別かれる苦しみ。

怨憎会苦（おんぞうえく）嫌な人、憎たらしい人と否応なしに会わなければならない苦しみ。

求不得苦（ぐふとっく）ほしいものが手に入らない苦しみ。

五蘊盛苦（ごうんじょうく）私達の体や心の中の色んな欲望がふくれあがり、それが叶えられないことで身体で感じる苦しみ。

他に「生」「老」「病」「死」の四つの苦しみと併せて八つの「苦」が有るとお釈迦様は説かれています。

これらの苦しみや悲しみは我々が生きている間に必ずつきまとう苦しみです。どうしたらこの苦しみから逃れられる、乗り越えられるのでしょうか。

お釈迦様は先ほどからの「八苦」を自分ですべて体験されています。「四門出遊」は有名ですが、あらゆる難行苦行を体験されて死ぬほどの苦行も過ぎるのは意味のないことであると。そして菩提樹の下で悟りを開かれたのです。その後お弟子に説法をされているときに『それ（八苦）が有ることを知りましょう。』とおっしゃっています。知ることは大切であると。多かれ少なかれ生きていく上では悲しみや苦しみからは逃げられないんですよ。ならばそれを予測して心の持ち様を改めましょう。今日生きていること、ご飯が頂けること、平和に暮らせること。すべてに感謝しやさしい心持ちで生きていくようにしたらどうでしょうか。私達は他人から酷い目に遭うのは嫌なものです。そんな時ほど他を害することなく生きていくことが大事なんですよ。と言うのが、お釈迦様の教えの一つなのです。

仏教とは奥の深いもので学問としても修行としても簡単には語り尽くせません。でもお釈迦様が一番私達に伝えたいと思われたのは、

「生きている事に感謝」ではないでしょうか。人は必ず死にます。死に向かって生きていくのです。残念ながらこの予測は必ず当たります。だからこそ、毎日を精一杯生きていきましょう。と言うことだと私は思います。

未来予想図や人生設計を立てて頑張って働き、生きてゆきましょう。でも『それ（八苦）が有ることを知りましょう。』というお釈迦様の言葉も心のどこかに思い留めておきましょう。それでも生きてゆく上で何時かは必ず悲しみや後悔に襲われるでしょう。その時優しく背中をなでて下さるのが観音様の慈悲です。観音様は私達が悲しくて泣いたり愚痴ったりしている間は寄り添って、それを聞いて下さいます。立ち上がろうとすると横で一緒に立ち上がって下さいます。それが観音様の慈悲です。お釈迦様はすべてを予測して、いずれ悲しみに負けそうな私達の為に観音様という強い味方までつけて下さっていたのですね。

まったく。お釈迦様というのは。すべてをお見通しなんですね。

南無観世音菩薩　合掌

山主　弘眞

山内順礼 第十回　逆杉（さかすぎ）

今回は「逆杉」をご紹介致します。

これは展望台に登る途中、本堂跡の遺跡のそばで何百年も成相寺を見守ってきてくれた大杉です。

逆スギ（宮津市指定文化財）

逆スギのある所は字成相寺小字白山後である。寺伝によると、かつての成相寺はこのあたり「せんだい」と通称する地にあった。「せんだい」は白山台の讃で白山権現のあった所というのが「丹哥（たんか）府志」の説である。寺伝は、応永七年（一四〇〇）山崩れの難ののち、中郡三重の成吉越中守の一族沙弥円庵が、同二十九年までかかって成相寺を現在地に移転したと伝える。逆スギの地は成相寺の故地ということになる。

山崩れで堂宇廃頽の時、杭を打って崩れを防いだ、その杭より芽をだし、逆さに枝を出したのが大樹になったというのが近世地誌類の通説であるが「逆杉」伝説の起源はもっとほかのところにあるのかもしれない。

樹高は約二十五メートル、地上一・五メートルの幹まわりは七・一メートルの巨大な杉である。地上一・五メートルの極めて低い樹幹の部分から三本に株分れして巨大な主幹となるが、その主幹から生じた枝もまた別の主幹となって、叢條する分枝の下部の大部分は下部に伸びているので甚だ奇観である。

市内のスギ科の属では最大で風格・神韻性ともに抜群である。

宮津市教育委員会

御縁つながり

新しい取組で「海の京都」と言うのが始まりました。京都府の主催で丹後地域の活性化を願って色々と取組が行われるそうです。又、秋には丹後建国千三百年の行事が予定されています。

この春に北近畿タンゴ鉄道で「赤松号」「青松号」と言う二台の電車が初お目見え致しました。それぞれ赤と青の車体で展望列車です。レトロな雰囲気が漂う内装で素敵な旅の思い出となりそうです。

天橋立観光協会様の方でも「三所詣で」と題して知恩寺と籠神社と成相寺をガイドさん付きで巡るツアーを天橋立駅出発で催されております。

成相寺でも今秋からは「成相寺聖徳太子伝説（仮称）」として、稚児大姉の一般公開等を予定致しております。

成相寺としても地元の皆様と共に多くの方にこの橋立の地を訪れて戴けるように色々と楽しい計画を考えて行きます。ぜひ天橋立にお出かけ下さいませ。